

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2020



所 属： 人文学部 人文学科 こども専攻

名 前： 犬童 昭久

作成日：2020年10月16日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：犬童 昭久

所属：人文学部 人文学科 こども専攻

1. はじめに

2013年に九州ルーテル学院大学人文学部に着任してから7年の教員生活を送っている。着任時は保育コースに所属、その後、児童教育コースに所属することとなり、現在、年間17科目の授業を担当している。専門は造形教育、図工美術教育及び教員養成を中心として公立学校、県立美術館勤務の現場体験も活かしながら本学の教育に携わっている。

2. 教育の責任

上記の授業に加え、6年間、教員免許状更新講習の講師も担当している。特に幼児・児童を対象とする教育現場において活用可能で実践的な内容を教授できるよう、現在の教育現場の状況や社会に求められるニーズも探りながら、自身の研究分野でもある造形教育、図工美術教育の内容について追究しているところである。

2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
美術史	2020年度前期	12	共通教育
保育内容（表現Ⅱ） ×2	2020年度前期	1H3 クラス 16 1H4, 1C クラス 18	教科及び教職に関する科目
保育内容の理解と 方法	2020年度通年	33	専門教育
図画工作科教育法 ×2	2020年度前期	3T クラス 28 3CE, 3C クラス 18	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅰ	2020年度通年	46	教科及び教職に関する科目
卒業研究	2020年度通年	3	専門教育
図画工作【幼】【小】 ×4	2020年度前期	1C, 1CE クラス 15 1T クラス 18	教科及び教職に関する科目

		1H3 クラス 16 1H4 クラス 18	
小学校教育実習Ⅱ	2020 年度後期	46	教科及び教職に関する科目
教職実践演習【幼小】	2020 年度後期	89	教科及び教職に関する科目
特別研究	2020 年度後期	5	専門教育
美術史	2019 年度前期	49	共通教育
保育内容（表現Ⅱ） × 2	2019 年度前期	1H3 クラス 17 1H4, 1C クラス 19	教科及び教職に関する科目
保育の表現技術	2019 年度通年	36	専門教育
図画工作科教育法 × 2	2019 年度前期	3T クラス 25 3CE, 3C クラス 18	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅰ	2019 年度通年	45	教科及び教職に関する科目
卒業研究	2019 年度通年	2	専門教育
図画工作【幼】【小】 × 4	2019 年度後期	1C, 1CE クラス 23 1T クラス 30 1H3 クラス 17 1H4 クラス 19	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅱ	2019 年度後期	45	教科及び教職に関する科目
教職実践演習【幼小】	2019 年度後期	75	教科及び教職に関する科目
特別研究	2019 年度後期	3	専門教育
美術史	2018 年度前期	27	共通教育
保育内容（表現Ⅱ） × 2	2018 年度前期	1H3 クラス 16 1H4, 1C クラス 17	教科及び教職に関する科目
保育の表現技術	2018 年度通年	33	専門教育
図画工作科教育法 × 2	2018 年度前期	3T クラス 25 3CE, 3C クラス 18	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅰ	2018 年度通年	41	教科及び教職に関する科目
卒業研究	2018 年度通年	5	専門教育
図画工作【幼】【小】	2018 年度後期	1C, 1CE クラス 23	教科及び教職に関する科目

× 4		1T クラス 25 1H3 クラス 16 1H4 クラス 17	する科目
小学校教育実習Ⅱ	2018 年度後期	41	教科及び教職に関する科目
教職実践演習【幼小】	2018 年度後期	75	教科及び教職に関する科目
特別研究	2018 年度後期	2	専門教育

■ 主要担当科目

「保育内容表現Ⅱ」

幼児の発達を「表現」領域の観点から捉え、造形表現活動を中心に幼児理解を深めながら保育内容について学ぶ。そのため、アクティブ・ラーニングの視点から情報機器の適切な活用も図りながら演習を行い、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解し、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身に付けることを目標としている。

「保育内容の方法と理解」

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験(※)と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。

1. 子どもの生活と遊びにおける他者（保育士等や他の子ども）との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術
2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術
3. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識及び技術

※子どもの生活と遊びにおける体験の例

- ①見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験
- ②身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験
- ③身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ体験
- ④子ども自らが児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）に親しむ体験

「図画工作」

本講義では身近な素材や材料（紙や着色用具など）を用いて、基礎的な実技演習を

行い、図画工作が子どもたちにとって、より意味のある充実した学習になるように理解を深めることを目標としている。

「図画工作科教育法」

小学校図画工作科の目標や内容及び教科の特性への理解を深めるとともに演習を通して図画工作教育はいかにあるべきかを学ぶ。そのため、小学校学習指導要領改訂の趣旨や教科の目標・内容について理解を深め、アクティブ・ラーニングの視点から小学校の教科書教材の分析を通して、情報機器の適切な活用を図りながら図画工作科の授業の在り方を検討することを内容としている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

「教員免許状更新講習」選択領域「幼児から児童へ、その学びと指導」～造形の基礎と学びの可視化～

学外での活動

芦北町立星野富弘美術館専門委員（2018～）

ルーテル学院中学・高等学校評価員（2020～）

NPO 法人「熊本マンガミュージアムプロジェクト」（2020～）

NPO 法人「赤松館保存会」（2018～）

NPO 法人「熊本地震 田中憲一の画を救う会」（2018～）

その他に幼児・児童の「創造性」に関する研究を共同研究者と共に行っている。

2.2. 教育組織運営

教育実施に際しての学内での役割や職務としては、児童教育コース長として 2016 年から 4 年間務めている。学内における複数以上の各種委員会に携わっている。

3. 教育の理念

3.1. 理念 1 教育者としての生き方を考える

児童・生徒の教育に携わる者としては、「どの子どもも育つ、伸びたがっている」という基本的な教育的愛情を持ちながら、子どもたちを認め、褒め、励まし、伸ばすと共に、それぞれの子どもの持ち味を生かしながら磨くという姿勢が大切である。教員養成に当たっては、教員として子どもたちの前に立つ者として、また社会人として社会から求められる教師像を踏まえながら、あくまで子どもたちの手本としての教師の在り方を求めるべく教育活動を展開している。

3.2. 理念 2 造形・美術を通した子どもの育成

造形・美術教育においては、豊かな情操を培うための大きな基盤のひとつとして捉え、造形・美術の楽しさや豊かさ、美しさ、味わい深さを子どもたちが享受し、生活や人生をより豊かにできるよう、造形的な見方の視点や美術への愛好心を育てる観点から造形・美術への興味・関心・意欲を喚起する授業展開を工夫しながら実践を行なっている。

3.3. 理念3 教育課題を見据えた教師の在り方

現代における教育課題は、いじめ・不登校をはじめとして、規範意識、自然体験の不足、教育格差、食育、学力、体力低下等、枚挙にいとまがないが、それらの問題解決のためには、その場しのぎの対症療法ではなく、教育を、歴史的視点、世界的視野で俯瞰的に捉えることが大切である。さらに、学校、家庭、社会が一体となって次世代育成に当たることが重要である。教育に携わる多方面からの情報を受信しながら、今、何ができるのかを学生と共に探っていきたい。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 造形・美術教育で育てる力

すべての教育活動は究極的に人格を高めることにつながるものである。保育コースの場合は「保育内容表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法」、児童教育コースの場合は「図画工作」「図画工作科教育法」等を通して、系統的、総合的な造形教育、図工美術教育の方法を身に付けさせる。また、保育活動や授業の成立には学級経営や生徒指導との関連も欠かせないことから、幼児・児童の発達、学校生活を踏まえ、実践的な授業の構築を図るべく、知識・技能を習得させる。

4.2. 教職生活への準備

教職を学ぶ学生は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教壇に立つことを目指している。教員に求められる資質は様々であるが、熊本県や熊本市の「求められる教師像」を踏まえながら、一般的な教養及び教職の教養、児童・生徒の観察と理解、学級経営の手法、学級経営案、いじめや不登校への対応、児童・生徒、保護者との人間関係、信頼関係の構築等、教育現場で必要とされる対応力の一端について心構えを持たせるべく、可能な範囲で課題についてのレポートや協議、講話を提供している。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

主な科目の概要は以下の通りである。

科目名： 保育内容表現Ⅱ

自己評価 講義の進め方を理論と演習の2部構成にすることで、理論を理解しながら演習（制作）を行うことができた。準備と片付けも含め、演習の時間配分を適度に設定することができた。

改善課題 制作の時間を十分に取ったため、作品発表等、ふり返りの時間が十分に確保できない回もあった。

改善計画 内容を詰め込み過ぎず、内容を精選し、時間に余裕を持って講義を進める。学生自らが、毎回の講義で何を学ぶのかについて学生自身が確認し、見通しを持って取り組ませる。学修の振り返りの時間や作品発表の時間を十分に確保する。

科目名： 保育の表現技術

自己評価 基本的な内容を重視しながら、実践に役立つ内容を指導することができた。制作・後片付けは主体的に取り組むように指導ができた。自主的に事前準備を行う所までは指導が行き着かなかった。作品発表と鑑賞の時間を十分に取ることが出来なかった。

改善課題 製作後の作品鑑賞の時間が充分ではなかった。

改善計画 学生自身に時間配分を決めさせ、意識させながら製作に取り組ませる。実践に役立つ指導内容や方法を考えさせながら、子どもを主体とした製作を行う意味等を理解させる。複数の担当者があるので、今後も各々の役割分担を明確にし、個々への対応を密にしながら、きめ細やかな取り組みを行っていく。

「図画工作」

自己評価 絵具等使用の際の準備や片付けをスムーズに取り組ませることができた。制作も主体的に取り組むように指導ができた。作品発表と鑑賞の時間を十分に取ることが出来なかった。スケッチブックによるポートフォリオの活用が充分ではなかった。

改善課題 制作後の作品鑑賞の時間を充実させることが必要。

改善計画 振り返りの時間として鑑賞の時間を短時間でも確保し、且つポートフォリオとしてのスケッチブックへの記録等を活用して取組の過程を確認させる。個々への対応を密にしたきめ細やかな指導を行う。学生に図画工作の実際を想定した指導内容や方法を考えさせ、題材のねらいや行う目的を明確にし、理解させる。

科目名： 図画工作科教育法

自己評価 テキストを中心に基本的な理論を理解させることは概ねできた。模擬授業の回数が少なく、実践的内容を充実させる必要がある。

改善課題 指導案作成等の演習の時間を増やすことが必要。学生の力量に合わせて、より専門的な内容で取り組むことが必要。

改善計画 質疑応答や双方向のやり取りを増やして個々への対応を密にしていく。指導案作成の際は、特に「評価」に関する項目の時間を重点的に行う。理論も理解させながら、図画工作の実際を想定した指導内容や方法を考えさせる。

科目名：「美術史」

自己評価 講義内容に関連させながら、美術館訪問の回を取り入れた。この取り組みは学生が美術に対して興味関心を持つ良い機会となったようである。美術史における特に重要な内容を、ピンポイントで紹介する形式で進めたところ、一方向的で単調な進め方になってしまった。

改善課題 内容を詰め込み過ぎてしまっていたため、時間が足りず、学生の理解の深まりが足りない回もあった。

改善計画 教授内容を精選し、時間に余裕を持って講義を進める。学生自らが、主体的に授業に参加できるように、作品鑑賞ツールを使用した演習やグループ討議も多く取り入れる。毎回の講義で何を学ぶのかについて学生自身が確認し、見通しを持って取り組ませると共に、振り返りの時間を十分に確保する。

5.2. 改善努力2

(1) 教育内容・方法の工夫

理論と演習（制作）を連動させることで、制作の意味を理解させ、造形活動への興味・関心を高める授業展開を行っている。また、実際の教育現場での言葉がけの実例の紹介や教職員としての資質向上のための資料を提供することを通して、教職における考え方を深める授業展開を行っている。制作後には作品鑑賞の時間を設けると共にポートフォリオ・スケッチブックを作成させ、学生自らが学びの成長の過程を振り返り、次時の学習に活用できるようにしている。適宜制作や鑑賞を取り入れて関心・意欲を喚起する授業の組み立てを行うようにしている。美術に関わる諸要素の理解が円滑となるよう、具体的な事例を示すことにより関心を高める授業展開を行っている。計画に従い授業展開を行うとともに、実際の学校現場での実例や場面を提供したり、教員としての資質向上のための資料により考え方を深めるべく授業展開を行っている。

(2) 教材作成と活用

米国で調査した「レッジョ・アプローチ」の実践事例を含めた「保育の内容（表現Ⅱ）」の資料を作成した。米国で調査した「ビジブル・シンキング」プロジェクトの実践事例を含めた「図画工作」における表現と鑑賞の指導法に関する資料を作成した。「図画工作教育法」における指導案作成等に関する資料を作成した。その他「保育内容（表現Ⅱ）」における制作の仕方等に関する指導用資料、「図画工作」における表現と鑑賞に関する指導用資料を作成し、活用している。

6. 教育の成果・評価

6.1. 造形教育、図画工作科教育に関する科目「造形表現Ⅱ」「図画工作」

演習中心の授業は学生にとっては充実感があるようであり、評価は平均値を上回っている。演習内容は模擬保育や模擬授業、または実習において活用ができたといった感想をもらっている。

6.2. 教職に関する科目「小学校教育実習Ⅰ」「教職実践演習」

「小学校教育実習」では、複数の教員で担当している。1名の教師に7名の学生で各クラスに分かれて、模擬授業や指導案作成指導を行なっている。「教職実践演習」では、教育実習を経験していることから、より大所高所からの講話、学級経営に関する討論やロールプレイ、また、赴任前研修会等を組み入れることで、現場に立つ者としての実践的な活動を取り入れている。そのような取り組みの成果として学生の評価も平均を上回っている。

7. 今後の教育に関する課題と目標

「保育内容表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法」「図画工作」「図画工作科教育法」での演習を行う際の課題として、本学には学生の制作した作品の保管場所や、演習に使用する道具が置けるような十分な置き場がないことがあげられる。毎回、限られた時間で準備と後片付けを行わなければならない、よほど計画的に取り組まなければ実施が滞ってしまう。また、せっかく学生が作成した作品も掲示する場所の確保が難しい状況であるため、そのことが学生のモチベーションの低下につながることも懸念している。現在、作成した作品は近隣の病院へ掲示ボランティアも兼ね、作品を贈呈することを行うなどの工夫をしているところである。学生が意欲的に授業に参加できるように計画的に取り組むと共に今後も知恵を出しながら改善を続けていきたい。

また、「小学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」「教職実践演習」などの教職科目は現在、複数名の教員で担当しているが、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を行うためには各々の教員の連携と協力が不可欠である。今後、教育現場では多方面からのアプローチが必要とされ、レジリエンスや柔軟性が求められる。そのため教員が各々の専門性を活かしながら一丸となり、学生への指導・支援を行うことは今後一層必要であると考え。学生が十分に学修できるよう尽力をしていきたいと考える。

8. 参考資料

(1) 担当科目シラバス

例：「保育内容表現Ⅱ」

講義科目名称： 保育内容(表現Ⅱ)

授業コード： C3200 C3201

英文科目名称： Contents of Child Care and Education: Field Express

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
大童昭久			
開講学科(専攻)	該当DP	授業形態	ナンバリング
こども専攻(保育コース)	1,2	講義・演習	HEC2105-L

授業の概要
 幼児の発達を「表現」領域の観点から捉え、造形表現活動を中心に幼児理解を深めながら保育内容について学ぶ。そのため、アクティブ・ラーニングの観点から情報機器の適切な活用も図りながら演習を行い、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解し、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身に付ける。

週	テーマ	講義内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション	講義の内容・目標・内容・進め方・評価について把握する。	シラバスを熟読し疑問点をまとめる。	課題について考察し、レポートを提出する。
2	保育における造形表現活動の意義	保育における造形表現活動の意義について考察を行う。	プリントによる指示に従う。	テーマに関するレポートをまとめる。
3	幼児の造形表現の発達論	幼児の造形表現の発達論について学ぶとともに、演習を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
4	幼児の描画の特徴とその背景	幼児の描画の特徴とその背景、幼稚園教育における評価について知る。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
5	幼児の造形表現の発達に即した援助	幼児の造形表現の発達に即した援助と幼稚園教育における評価の考え方について考察する。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
6	幼児の造形表現の発達過程に見られる個人差	幼児の造形表現の発達過程に見られる個人差と領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性について考察する。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
7	保育における造形表現指導のねらい	領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性を理解し、保育における造形表現指導のねらいについて学ぶとともに演習を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
8	造形表現の指導における保育者の役割	造形表現の指導における保育者の役割について学ぶとともに、演習を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
9	保育における造形表現の指導形態	演習を通して保育における造形表現の指導形態について学ぶとともに、小学校の教科等とのつながりを理解する。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
10	保育における造形表現の間接的な援助	保育における造形表現の間接的な援助について、指導案を作成し、模擬保育を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
11	保育における造形表現の直接的な援助	保育における造形表現の直接的な援助について、指導案を作成し、模擬保育を行う。併せて情報機器を活用した演習も行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
12	保育における造形表現に関する模擬保育	保育における造形表現に関する模擬保育について指導案を作成し、模擬保育を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。

13	幼児の造形表現の動機と意欲	幼児の造形表現の動機と意欲について考察するとともに、演習を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
14	幼児の造形表現の個人差と読み取り	幼児の造形表現の個人差と読み取りについて、考察と演習を行う。	授業後に宿題を出すので、次回にレポートして提出すること。	テーマに関するレポートをまとめる。
15	まとめ	これまでの需要を総括し、学修内容について確認する。	プリントによる指示に従う。	講義内容の定着状況を把握し、課題を整理する。
16	試験	授業内容の定着度等を確認する。	プリントによる指示に従う。	講義内容の定着状況を把握する。
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、保育内容の領域「表現」に関する基礎的知識を習得するとともに、造形表現活動を通して幼児理解を深め、より実践的に保育者の役割を身に付ける。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域ごとに幼児が身につけていく内容の関連性や小学校の教科教材等のつながりを理解している。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 		
履修の留意事項		授業中に提示する物や教材操作の実践などに積極的に参加する。		

	この科目は事前・事後学修に毎回180分程度の時間が必要です。
テキスト	『保育をひらく造形表現』（萌文書林、植英子、2018）
参考図書・教材/ データベース・雑誌 の紹介	『幼稚園教育要領』（平成29年3月 文部科学省）、『保育所保育指針』（平成29年3月 厚生労働省）、『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』（最新版 内閣府、文部科学省、厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成26年12月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
備考	担当教員は、公立学校教員として造形に関する活動を指導した経験がある。この経験を活かして本授業では、造形的な表現活動の理念および技術習得を教授する。

評価方法 評価のポイント	【平常点】 テーマに関心をもち、授業や活動に真摯に取り組んでいる。	【課題・レポート】 課題解決に意欲的であり、考察結果等を的確に表現している。	【参加態度・意欲・発表】 作品の制作や発表等に意欲的に取り組んでいる。	【定期試験】 これまでの学修内容について理解している。	合計
割合(%)	20	20	20	40	100
観点	知識・理解	○	○	○	
	思考・判断		○	○	
	関心・意欲・態度	○			
	技能・表現			○	○

(2) 授業評価アンケート結果

例：「保育内容表現Ⅱ」

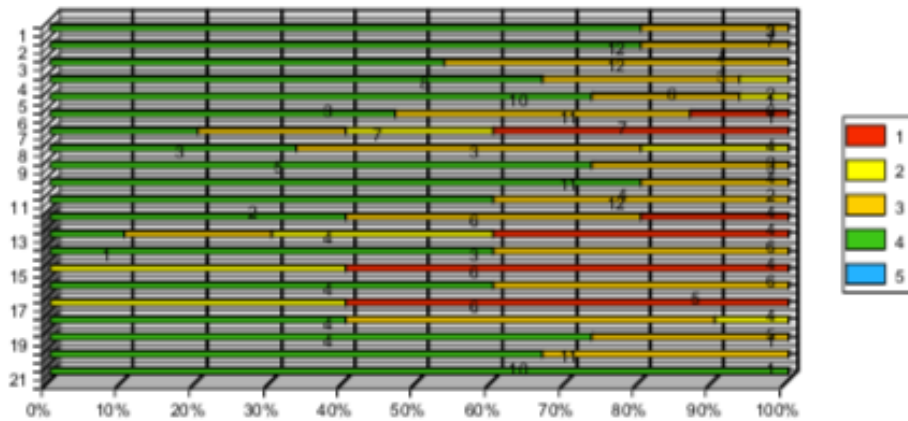
2020年度 授業評価アンケート(集計表)

開講年度 2020年度
 保育内容(表現Ⅱ)

アンケート総数 15 枚

1. 授業評価	5	4.1. とてもあてはまる	3.2. ある程度あてはまる	2.3. あまりあてはまらない	1.4. 全くあてはまらない
---------	---	---------------	----------------	-----------------	----------------

	評価 5	4	3	2	1	平均
1. ①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた	0	12	3	0	0	3.8
2. ②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた	0	12	3	0	0	3.8
3. ③授業は「講義概要(シラバス)」に沿って実施していた	0	8	7	0	0	3.53
4. ④理解がしやすいように教え方が工夫されていた	0	10	4	1	0	3.6
5. ⑤小テストやレポートなどの課題が出された	0	11	3	1	0	3.67
6. ⑥教員から課題などの提出物にフィードバックがあった	0	7	6	0	2	3.2
7. ⑦グループワークやディスカッションの機会があった	0	3	3	3	6	2.2
8. ⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった	0	5	7	3	0	3.13
9. ⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものだった	0	11	4	0	0	3.73
10. ⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか	0	12	3	0	0	3.8
11. ⑪事前学修・事後学修・課題が提示された	0	6	4	0	0	3.6
12. ⑫教員からの課題などの提出物にフィードバックがあった	0	4	4	0	2	3
13. ⑬教員に質問がしにくいと感じた	0	1	2	3	4	2
14. ⑭わかりやすいように授業教材が工夫されていた	0	6	4	0	0	3.6
15. ⑮課題が多いと感じた	0	0	0	4	6	1.4
16. ⑯授業に集中できるように授業内容が工夫されていた	0	6	4	0	0	3.6
17. ⑰勉強のペースがつかみにくいと感じた	0	0	0	4	6	1.4
18. ⑱授業終了後、授業教材を見直す機会があった	0	4	5	1	0	3.3
19. 1. 授業で、ディプロマポリシー1. における能力は向上しましたか	0	11	4	0	0	3.73
20. 2. 授業で、ディプロマポリシー2. における能力は向上しましたか	0	10	5	0	0	3.67
21. 3. 授業で、ディプロマポリシー3. における能力は向上しましたか	0	1	0	0	0	4



2020年度

授業評価アンケート(集計表)

開講年度 2020年度

保育内容(表現Ⅱ)

アンケート総数 15枚

5段階評価	5:	4:1. とてもあてはまる	3:2. ある程度あてはまる	2:3. あまりあてはまらない	1:4. 全くあてはまらない
-------	----	---------------	----------------	-----------------	----------------

